

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津特別支援学校

学校番号

111

自己評価

学校教育目標	<p>児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことができるように</p> <p>(1) 児童生徒一人一人の障がいの状況や、発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。</p> <p>(2) 仲間と共にとくましく、明るく生きる力を育む。</p> <p>(3) 一人一人が社会自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を培う。</p>
評価する領域・分野	◇「安心安全な教育活動・学習活動」「保護者・地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>多くの項目で、おおむね良い評価を得ている。特に「新型コロナウイルス感染症対策」に関する項目では、大変良い評価をいただき、感染症対策を徹底しながら教育活動を行っていることを評価していただいた。</p> <p>半面、コロナ禍で制限された交流活動や地域行事への参加やボランティアの活用などといった項目については、近年では最も低くなった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続くと考えられる。それを踏まえて、安心安全な学校生活を送ることができるような対策を考えると、コロナ禍において、難しくなった地域との連携について方策を考えていく必要がある。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>県のガイドラインに沿って、教育活動が安全に、安心して行えるようにする。その上で、児童生徒一人一人の自立に向けた教育活動を行う。その際、様々なことについて保護者へ分かりやすく丁寧に伝えていく。また、保護者や地域に対して、連携できる方法を新たに探っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徹底した感染防止策 ・ICT機器を有効活用した授業研究の推進 ・地域への新たな発信
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会 ・企画委員会 ・各部会 ・各分掌会 PTA役員会
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナガード」を中心に健康安全部と連携しながら、施設設備の消毒、給食等における感染予防について対策を徹底する。また、感染リスクを考え、学習体制や学習内容についても再検討する。 ・すぐメール等を利用して、保護者に適時に連絡を行う。 ・研修部を中心に、ICT機器を有効利用した授業研究を進め、更にすべての教員が実践できるように研修を充実させる。 ・オンラインを利用した地域交流を進める。 ・感染状況を見ながら、地域での販売や作品展の開催などを実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見・感想 ・学校評議員等からの意見 ・部内・校内における教員相互の事後評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナガード」を中心に健康安全部と連携し、学校全体で清掃・手洗い・消毒等の感染予防対策を徹底した。給食の黙食も徹底した。 ・教務部を中心に、学校の教育計画を見直し、感染リスクのある活動を延期や中止とした。 ・学校間交流や居住地校交流などをオンラインで実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して家庭における感染予防をすぐメール等で呼び掛けた。 ・ICT機器を授業に活用する研修を複数回実施した。
評価の視点	評価
① 学校生活のあらゆる場面での感染症対策を徹底し、安心安全な学校生活が送れる体制づくりができたか。	Ⓐ B C D
② 密にならない環境づくりの中で効果的な教育活動を行うために、ICT機器を使った授業やオンラインでの交流など実施することができたか。	A Ⓑ C D
③ 児童生徒の社会自立に向けた教育活動が展開できたか。	A Ⓑ C D
④ 地域に根差した学校として発信したり、地域の人々と交流したりすることができたか。	A B Ⓒ D
成果・課題	総合評価
<p>○職員が一丸となって、登校から下校までのあらゆる場面で新型コロナウイルス感染症予防に取り組み、保護者の協力も得て、感染を広げることなく教育活動を行うことができた。</p> <p>○感染予防対策をとることが、児童生徒及び職員にも日常生活で徹底された。</p> <p>○感染拡大の4・5・6波も経験したが、地域の感染状況を見ながら、修学旅行や校外学習などを計画し、工夫をして実施できた行事も多くあった。</p> <p>○iPad等の整備がすすみ、授業に積極的に活用されるようになった。また、その有効な使い方について多くの職員が研修会などを通して学んだ。</p> <p>○主題研究を通して、教員がよりよい授業づくりに努めたことで、保護者から教師の専門性についての良い評価が得られた。</p> <p>●ICT機器の活用頻度や効果的な使い方については、まだまだ職員によって温度差がある。</p> <p>●コロナ禍で対外的な活動が制限されたことで、地域の方々との交流も限定された。新しい交流の機会を作ることが難しかった。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況を見ながら、引き続き感染症対策に取り組む。 ・オンライン授業等がより効果的にできるような教材や実施方法について考えていく。 ・タブレットを利用した効果的な授業や働き方改革につながる教材づくり等についてさらに研修を行い、どの教員も行えるようにしていく。 ・授業研究を行いながら、児童生徒の実態に応じた支援が行われているかを確認し、児童生徒の自立につながる授業や支援方法について検討し、授業改善を行う。 ・コロナ禍でも地域とつながることができるような活動を行う。作業製品販売の方法の工夫や地域への発信方法について新たな方策を考える。

学校関係者評価 (令和3年2月書面開催にて実施)

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育を受けている児童生徒にとってコロナ禍における2年余りのハンディキャップは大きなものがあると思われる。それを克服するための学校の努力、先生方の工夫が感じられる。 ・ICTの活用も進んでいることが分かった。時代、環境に合わせた教育が行われている。 ・学校の教育活動が保護者の理解の上で行われ、保護者も協力的であることがよく分かった。 ・感染状況を見ながら、できるだけ保護者が授業を参観したり、地域の方と交流したりする機会を是非作ってほしい。児童生徒の頑張っている姿を発信してほしい。

